

栗原市

いり

さわ

入の沢遺跡

古墳時代前期 国内最北の拠点的な集落



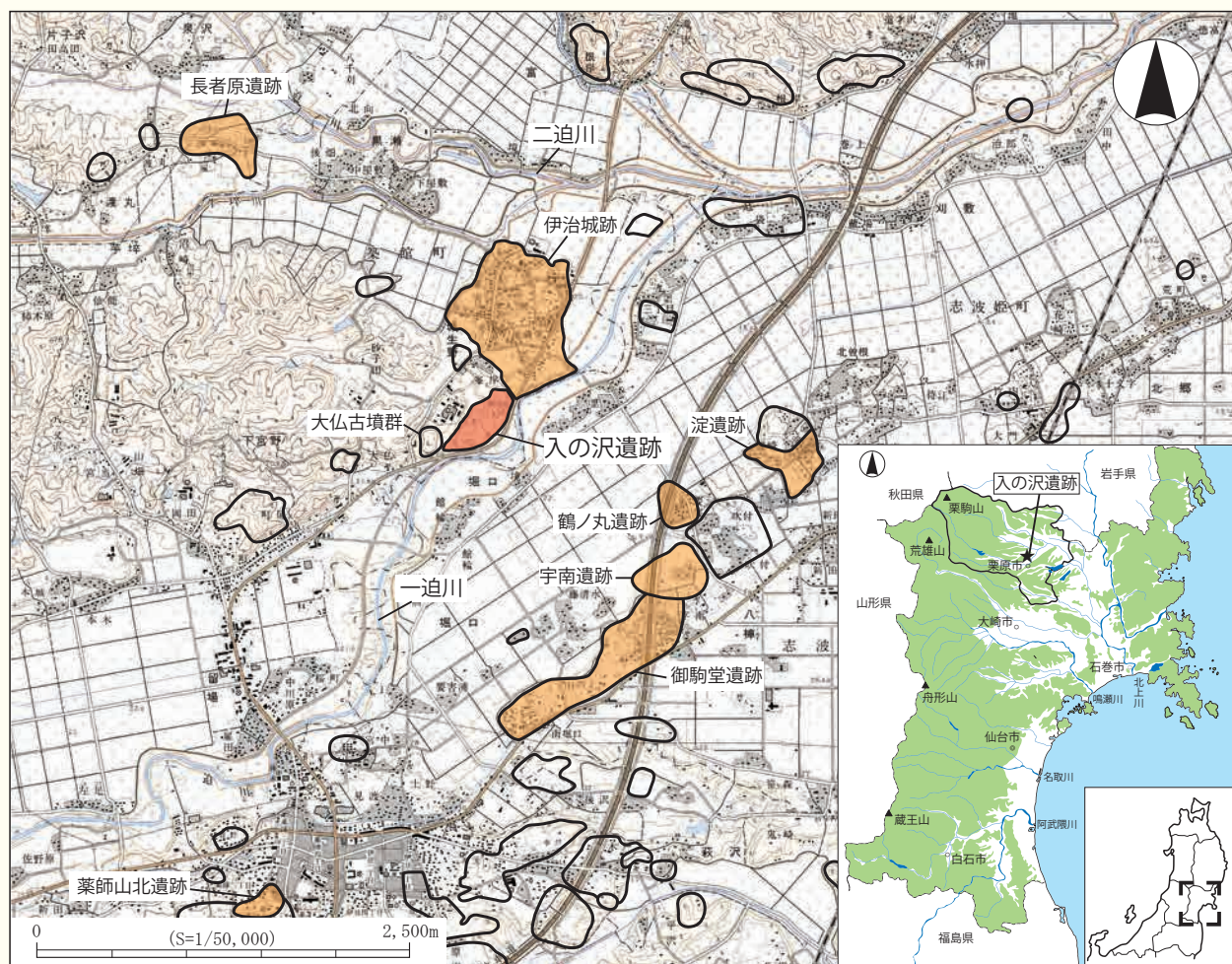
入の沢遺跡

入の沢遺跡は、岩手県との境に近い、県北内陸部の栗原市にある古墳時代を中心とする遺跡です。国道4号バイパス工事に伴い、平成26(2014)年度に遺跡南半部の発掘調査が行われ、古墳時代前期(4世紀)後半頃の、大溝跡と堀跡によって周りを囲んだ防御性の高い大規模な集落が発見されました。

遺跡は一迫川と二迫川に挟まれた標高約49mの丘陵上に、東西450m、南北460m程の範囲に広がっています。周辺の低地との高低差は最大で26mです。遺跡の北側には、古墳時代前期の有力者の居館または祭祀の場と考えられる方形に巡る溝跡や、小規模な古墳が見つかった伊治城跡があります。一迫川の対岸には、鶴ノ丸遺跡や宇南遺跡などの集落や墓域が発見されています。また、遺跡の西側には大仏古墳群があり、入の沢遺跡と関係する可能性があります。

古墳時代は現在の奈良県や大阪府を中心に、有力者が権力の象徴として古墳と呼ばれる大規模なお墓を築いた時代でした。古墳には銅鏡や鉄製品、首飾りなどの装身具が副葬されることが多く、日常生活では、古墳時代に特有の土器である土師器を用い、方形の竪穴建物に住み、稲作を主な生業にしていました。これらの生活や葬送の特徴をまとめて古墳文化と呼びます。古墳文化の周辺には、縄文時代以来の伝統を引き継いだ土器を用い、狩猟・採集を中心とする生活をおくっていた続縄文文化の人々がいたと考えられています。

古墳時代前期は、古墳時代の開始の時期にあたり、この頃は現在の宮城県と岩手県の県境付近が、古墳文化の北縁と考えられています。このような場所に入の沢遺跡や伊治城跡などの遺跡が位置しています。

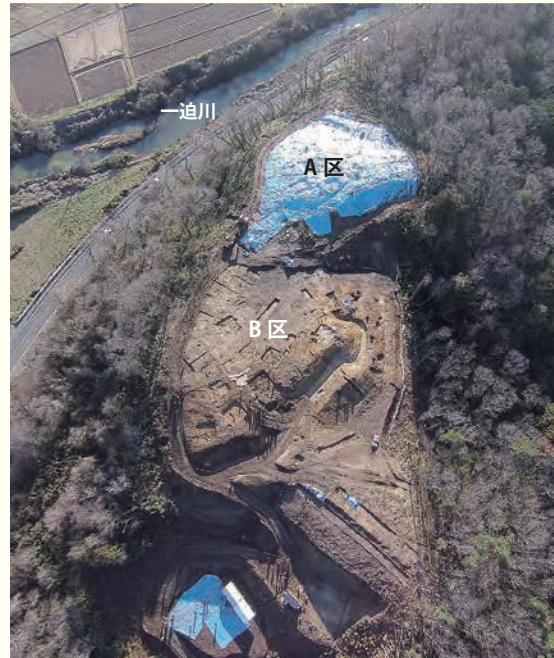


拠点となった集落

大溝跡と堀跡が竪穴建物跡からなる集落域を囲んでいます。大溝跡と堀跡は並行し、地形にあわせた不整形です。大溝跡の全長は約330mです。集落域の範囲は、北東—南西方向125m、北西—南東方向70m程で、この中には、40棟以上の竪穴建物跡が密集して分布しています。その位置関係から、計画的に配置されたと考えられます。

竪穴建物跡を中心に土器、銅鏡、鉄製品、装身具、土製品、石製品、石器、織物、赤色顔料など、多くの遺物が出土しました。特に、銅鏡や鉄製品、装身具は古墳の副葬品に相当し、これらが竪穴建物跡からまともに出土した例は全国的にみても入の沢遺跡以外ありません。また、東北地方の古墳から出土した副葬品と比較しても、質・量ともに豊富な内容と言えます。

地理的にみると、銅鏡、鉄製品、装身具、織物、赤色顔料（水銀朱）は、古墳時代前期の遺跡としては国内最北の出土例です。



北東上空から見た集落のようす



集落の全体図

発掘された 1,700 年前の集落



丸い部分が材木の痕跡

3 塀跡

溝状に掘った穴に材木を立て並べたざいもくべい材木塀です。材木の直径は 10～20cm で、5～35cm の間隔で据えられています。地上高は 3m 程と推定されます。



2 張り出し部

長さ、幅ともに 7.0m の凸形につくられています。張り出し部は通常の集落では見られない珍しい施設で、東北地方では 2 例目です。



1 大溝跡の断面

幅 4.0m、深さ 1.4m で、断面は台形を逆にした形をしています。1,700 年の間に少しずつ埋まり、調査をしたときには完全に埋まっていた。



4 大溝跡と塀跡

塀は丘陵縁に、大溝は丘陵斜面につくられていて、集落を囲んでいます。塀と大溝の底(人が立っている場所)には最大で 4.0m の高低差があり、防御性の高さが見てとれます。



7 竪穴建物跡 4 出土土器

煮炊き具である甕かめや、貯蔵具である壺つぼを中心にさまざまな種類の土器が出土しました。



5-1 竪穴建物跡 3

竪穴建物とは、地面を掘りくぼめて床や壁をつくり、柱を立てて屋根をかけた建物のことを言います。竪穴建物跡 3 は、南北 5.9 m、東西 5.3 m で、今回調査した竪穴建物の中で最も多くの土器が出土しました。



5-2 竪穴建物跡 3 出土土器

小型の器台や鉢、甕を中心にさまざまな種類の土器が出土しています。



6-1 竪穴建物跡 1 炭化材と遺物が出土したようす

西から見たようすです。南北 6.2m、東西 7.0m、壁の高さは 84cm です。火事にあっいて、多くの遺物と屋根や柱が焼けてできた炭が出土しました。出土した遺物には、銅鏡や鉄製品、装身具など大変貴重なものが多くありました。



銅鏡



装身具 (勾玉、管玉)



土器



6-2 竪穴建物跡 1

北から見たようすです。遺物や炭を取り除くと、炉や貴重品を置いたベッド状の施設、排水溝、水を溜める穴などのさまざまな施設が見つかり、東北地方では珍しいづくりの竪穴建物であることがわかりました。

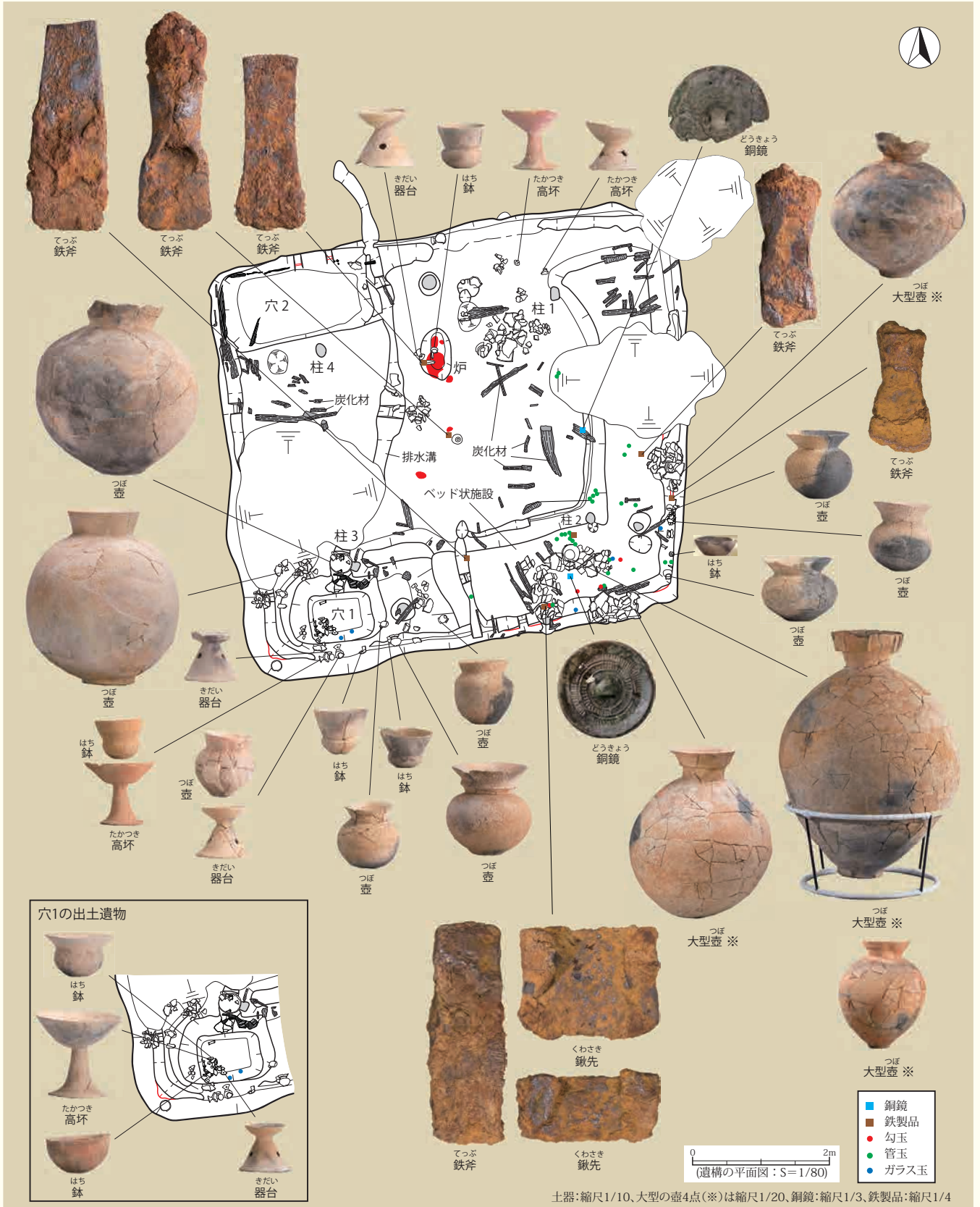
6-3 竪穴建物跡 1 出土遺物

さまざまな遺物が完全な形のままで出土しています。

焼失した竪穴建物跡 1

入の沢遺跡では、12棟調査した竪穴建物跡のうち、5棟が火事で焼失していました。竪穴建物跡1もその一つです。建物内にはさまざまな遺物が残されており、突然の火事だったことがわかります。

後片付けが行われずに放棄されたため、火災直前の建物内のようなすがわかる貴重な発見となりました。竪穴建物跡1は銅鏡や鉄製品などの貴重品を保管する倉庫だったと考えられます。



竪穴建物跡 1 遺物の出土位置

出土遺物

多数の土器とともに、銅鏡2面、鉄製品25点、装身具（垂飾品2点、玉類266点）、石製品、石器、苧麻製の織物、赤色顔料（水銀朱、ベン

ガラ）、焼けたヒトの四肢骨、炭化米などが出土しました。銅鏡、鉄製品、装身具、水銀朱は、東北地方以外の地域からもたらされたものです。



銅鏡（珠文鏡）

直径5.5cm、厚さ1.2～1.7mm。半球状の小円を密に並べた文様を特徴とします。



銅鏡（櫛歯文鏡）

直径5.5cm、厚さ0.8～2.2mm。櫛の歯のような文様を特徴とします。



苧麻製の織物（櫛歯文鏡）

珠文鏡と櫛歯文鏡は苧麻製の織物に包まれて保管されていました。



鉄製品

剣、鎌、弓の金具、斧、鍬先、刀子などが出土しました。木製の柄の一部や繊維が残っているものが多く見つかっています。このうち、斧1点と鍬先2点は苧麻製の織物に包まれて、大型の壺の中で保管されていました。



土器

土師器といいます。種類や大きさはさまざまで、どれも丁寧につくられています。後列の壺は、左奥が高さ80.2cm、その右側の2点が高さ65cm前後で、特に大型です。この中には外面を赤彩しているものもあり、特別な使われ方が推定されます。



装身具

垂飾品、勾玉、管玉、棗玉、丸玉、白玉、ガラス小玉が多く出土しました。これらは大きさや形、材料となる石の種類にバラエティがあります。組み合わせて腕飾りや首飾りとして使用されていたと考えられます。



垂飾品

石製の垂飾品です。左側が長さ2.6cm、幅2.5cm、右側が長さ幅ともに2.5cmです。東北地方では2例目となる珍しい遺物です。



その他

生活の道具である砥石（左）や土器（中）、火事で炭になった米（右）も出土しています。

その他の出土遺物

竪穴建物跡 1 以外でも銅鏡が 2 面出土しました。どちらも文様のある面に赤色顔料がみられます。



ないこう かもんきょう
銅鏡（内行花文鏡）

竪穴建物跡 2 から出土しました。直径 9.0cm、厚さ 0.8～2.7mm。半円状の弧を内に向けて連ねた文様を特徴とします。全体の半分が出土し、破損した面が磨かれており、この状態で使用されました。



しゅもんきょう
銅鏡（珠文鏡）

竪穴建物跡 5 から出土しました。直径 8.2cm、厚さ 1.1～2.0mm。

古墳文化のなかの入の沢遺跡

入の沢遺跡の集落が営まれていた古墳時代前期は、弥生時代から古墳時代になり、北は宮城県大崎平野から、南は鹿児島県まで日本列島の広範囲で大型の古墳がつけられた時期です。

入の沢遺跡は、この時期の古墳文化最北の地に位置する、高い防御性を備えた大規模集落であることがわかりました。さらに、大型古墳の分布域の北側にありながら、銅鏡や鉄製品、装身具などの権威を示す器物が多数出土しており、近畿地方に所在した当時の中央政権とも関わりをもつ有力者によって営まれた、栗原地域の拠点集落といえます。



東北地方の主な前期古墳と入の沢遺跡の位置

関連年表

今から～年前	年代 (西暦)	時代	主なできごと
30,000 年前		旧石器時代	日本列島各地で人類が生活するようになる
16,000 年前		縄文時代	土器の使用がはじまる
2,500 年前	0 年	弥生時代	米づくりがはじまる 239 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いをとおくる
1,700 年前	4 世紀 (300 年)	古墳時代	前期 大型の古墳が盛んにつくられる 県内では、雷神山古墳 (名取市)、遠見塚古墳 (仙台市) などがつくられる
1,600 年前	5 世紀 (400 年)		中期 大仙稜古墳 (仁徳天皇陵古墳) がつくられる
1,500 年前	6 世紀 (500 年)		後期 聖徳太子が政治をおこなう
1,400 年前	7 世紀 (600 年)	飛鳥時代	645 大化の改新
		奈良時代	710 平城京に都を移す 724 多賀城跡 (多賀城市) がつくられる 767 伊治城跡 (栗原市築館城生野地区) がつくられる
1,200 年前	9 世紀 (800 年)	平安時代	794 平安京に都を移す 869 陸奥国大地震
800 年前	13 世紀 (1,200 年)	鎌倉時代	1192 源頼朝が征夷大將軍になる
700 年前	14 世紀 (1,300 年)	室町時代	1338 足利尊氏が征夷大將軍になる
400 年前	17 世紀 (1,600 年)	江戸時代	1603 徳川家康が征夷大將軍になる

編集・発行 宮城県教育庁文化財保護課

平成 29 (2017) 年 3 月

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号 電話 022(211)3684
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bunkazai/



この冊子は 1 部あたり 38 円で印刷しています。
この冊子は再生紙を使用しています。